

令和6（2024）年度第3回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 令和7年1月16日（木） 午前10時00分～午前11時05分

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次第】

- 1 開会
- 2 企業局長あいさつ
- 3 議事
 - （1）函館市上下水道事業経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンの進行管理について
- 4 報告事項
 - （1）ポイントサービスの終了等について
- 5 その他
- 6 閉会

【出欠状況】

■委員（出席10名）

（○は出席，敬称略）

所 属 団 体	氏 名	出	所 属 団 体	氏 名	出
公立はこだて未来大学	白石 陽	—	函館消費者協会	森元 浩	—
北海道大学名誉教授	三浦 汀介	○	連合北海道函館地区連合会	黒瀧 浩二	○
北海道税理士会函館支部	福田 雄基	—	函館商工会議所	竹内 正幸	○
北海道電力ネットワーク株式会社	中村 信吾	○	函館水産連合協議会	布目 征康	○
函館市社会福祉協議会	佐藤 秀臣	○	函館地区バス協会	渡部 浩典	○
函館市女性会議	佐々木 香	—	函館湯の川温泉旅館協同組合	大桃 誠	—
函館市町会連合会	江頭 進	○	一般公募	山本 秀治	○
函館市町会連合会 東部地区協議会	川口 英孝	○			

■事務局（出席25名）

手塚企業局長

- ・ 管理部 臼杵部長，兵庫次長，早瀬総務課長，両角経営企画課長，今野経理課長，杉澤料金課長，加藤収納・滞納整理担当課長，経営企画課4名
- ・ 上下水道部 伊藤部長，田原次長，川村管路整備室長，佐野業務課長，川尻計画担当課長，丹内建設担当課長，櫻井維持管理担当課長，西谷浄水課長，加地終末処理場長
- ・ 交通部 高木部長，廣瀬次長，向出安全推進課長，湊事業課長

【会議発言概要】

1 開会

経営企画課長 本日は、ご多忙中のところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。
開会前ではございますが、佐々木副会長、白石委員、福田委員、森元委員、大桃委員におかれましては、所用により欠席されますことをご報告させていただきます。
なお、当懇話会の会議録につきましては、後日公表となりますことをご了承願います。
また、ご発言の際には、マイクをお使いいただきますようお願いいたします。
それでは、これより令和6年度第3回函館市企業局経営懇話会を開会いたします。

2 企業局長あいさつ

経営企画課長 初めに、企業局長 手塚祐一よりご挨拶を申し上げます。

企業局長 本日は皆様大変お忙しい中、ご参集くださいまして誠にありがとうございます。企業局長の手塚でございます。令和6年度第3回函館市企業局経営懇話会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、昨年6月から本経営懇話会の委員といたしまして、上下水道事業および交通事業の運営に対しまして様々な視点からご意見などをいただき、厚く御礼を申し上げます。特に交通事業経営ビジョンの再改訂にあたりましては、素案の段階から大変貴重なご意見などをいただき、成案化に結びつけられましたことに、改めて感謝を申し上げる次第でございます。ありがとうございました。

企業局では、現在、令和8年度までの10年間を計画期間といたします。上下水道事業および交通事業経営ビジョンに基づき各種施策を進め、健全経営に努めているところでありますが、今後、人口減少などに伴います水需要や市電利用の検証を始め、老朽施設への対応や災害対策など、各事業と取り巻く環境は一層厳しい状況になっていくことが想定されるところでございます。

このような状況でございますが、企業局といたしましては引き続き経営ビジョンに掲げております基本理念の実現に向け、一丸となって各種施策に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様におかれましては、今後におきましても、それぞれのお立場から企業局の事業運営に対しまして、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

経営企画課長 次第3の議事でございますが、ここからの進行を三浦会長にお願いしたいと思います。
三浦会長よろしく願いいたします。

三浦会長 それでは、次第3の議事でございます。
函館市上下水道事業経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンの進行管理について、事務局から説明をお願いいたします。

経営企画課長 それでは、函館市上下水道事業経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンの進行管理につきまして、私、経営企画課長よりご説明させていただきます。

<説明 資料1～16ページ>

三浦会長 ただいま事務局から説明がございましたが、各委員の皆様から質問等ございましたら、どうぞよろしくお願いいたします。どうぞ。

川口委員 能登地震ですけれども、テレビで見て、今回非常に水道の復旧が遅れて、それが関連死の多さに繋がったような感じがしました。それと、民間の業者も入って十分活躍してるのはテレビで見えていますけれども、今回、函館市も市の職員と民間の業者が一緒に行動したということですが、業者の選定は、挙手なのか、それとも市の方から業者を指名したのでしょうか。それと、費用は市で持ったのかどうか、その辺についてお願いします。

維持管理担当 課長	維持管理担当課長の櫻井です。能登半島の民間事業者との合同派遣の内容ですけれども、日本水道協会から応急復旧の派遣要請がございました。民間業者の選定は、函館市管工事業協同組合にお願いし、組合員の中から行ける業者を選定していただき、合同で行った形になります。それから、費用ですが、派遣先の石川県の七尾市の方に行ったのですけれども、そちらの方から費用は出ております。以上です。
三浦会長	よろしいですか。それでは、他の委員の方、ご質問等ございますか。どうぞ。
黒滝委員	交通事業関係についてよろしいでしょうか。「人に優しい公共交通」についてお聞きしたいのですが、まず、1年間に電車で車椅子の利用実態はどのくらいあるのでしょうか。それと、今後の超低床電車導入予定などがあれば、その辺もお聞きしたいと思います。以上です。
事業課長	事業課長の湊より回答いたします。車椅子の利用者数に関しましては把握しておりませんが、毎月1、2件のご利用についてのお問い合わせがございましたので、それなりのご利用はされていると思います。ただ、積雪の時期には若干外出を控える方もいらっしゃると思います。あと、低床電車の導入につきましては、今後もビジョンの計画に則って推し進めていく考えでございます。以上です。
三浦会長	よろしいですか。それでは、他の委員の方、ご質問等ございますか。どうぞ。
黒滝委員	超低床電車の車椅子の利用というのは、スムーズに車椅子が電車に乗れるということでは大変利便性がいいとは思いますが、それ以外の電車で車椅子を利用されたい方がいたときに、どのような対応をされて、どのような乗車体制になっているのかお聞きしたいのですけれど、よろしいでしょうか。
事業課長	事業課長の湊よりお答えいたします。超低床電車以外の電車が到着したときに、車椅子の方がいらっしゃるときには、乗務員が運転台から降りて、乗車口で車椅子を乗車するお手伝いをさせていただいております。バッテリーを積んでいる車椅子につきましては、1人ではなかなか難しいものですから、事前にご連絡して欲しい旨をホームページには掲載しておりますが、突発的にバッテリーを積んだ車椅子の方がいらっしゃる場合には、乗車されてるお客様にもお手伝いをお願いすることがございます。以上です。
三浦会長	それでは、他の委員の方ございますか。はい、どうぞ。
中村委員	北電ネットワークの中村です。上下水道それから交通事業施策目標に対して概ね予定通り進捗しているということは理解いたしました。大変ご苦労さまです。1点確認ですけれども、例えば、交通事業14ページの出資の関係では厳しい状況ですというご報告が事務局の方からあったかと思っておりますけれども、例えば、事業評価の中でこういった経営状況のビジョン等実態の乖離みたいなものを指標化して管理していくというようなところをお考えになったことがあるのかないのかということ、ビジョンの途中で経営状況を踏まえて見直しをしたという現状を踏まえると、PDCAを回すという中に、こういったビジョンの計画の数値的な部分で、計画と実績に乖離がないのかということを見ていくということも有益なのかなという気はしたのですが。ただ、この懇話会の抱えているミッションとしては、そこは所掌外だということであれば、そこは理解するのですけれども、その点について少し教えていただければと思います。
経営企画課長	経営企画課長の方から回答させていただきます。経営ビジョンの進行管理について経営に関する部分を指標化して管理している項目がないのかというところではございましたが、その点につきまして、経営に関しての指標化はしておりません。指標化しているのは施設の更新ですとか、そういったものに対して何%程度まで更新が進んでいるかというような評価をしているのですけれども、経営に関するものに関しては指標化しておりません。ただし、PDCAによる財政計画の進捗状況というものにつきましては、毎年度、決算値が固まった段階で計画値との比較を行っております。ビジョンにつきましても、平成29年度の策定以降、中間年の令和4年度に一度財政計画についても見直しを行っておりまして、現在は改訂後の財政計画に基づき事業を進めております。以上でございます。
中村委員	そうすると、「A」「B」とかそういった指標化にはなじまないというご判断という理解でよろしいですか。

経営企画課長	経営に関しての評価ということでは、現ビジョンの評価手順では行っていないのですが、経営に関する指標化というのも一つ指標として持った方がよろしいのかなというところも貴重なご意見としていただいたところでありますので、今後、次期ビジョンの策定に向けて管理手順や評価手順を検討してまいりたいと考えております。以上でございます。
中村委員	ありがとうございます。
三浦会長	それでは、他の委員の方ございますか。どうぞ。
川口委員	市電ですごいなと思うのは、富山市の市電なのですが、北陸新幹線の開業に伴って、市内の回遊性の強化や利便性の促進のため、コンパクトなまち作りを目指した開発が、市民や観光客の足、市場に寄与したということを見ました。去年から、市長が10人の外部の意見を聞くということが新聞に書いてありましたけれども、市電を空港まで走らせた方がいいんじゃないかということがあって、何か良い夢のある話だなと思っておりました。市長の公約で予算をつけてると思うのですけれども、函館への新幹線の乗り入れを検討しておりますので、そういう状況がもし出来たときに、富山市の北陸新幹線の開業に対する考え方のようなことをしようという検討はしているのでしょうか。
事業課長	事業課長の湊から回答させていただきます。新幹線乗り入れについては、ただいま市の方でいろいろと調整中でございます。それに伴う市電の動きとしては今のところ計画はございませんが、市電沿線上の人口というのは毎年減少しております。本ビジョンの策定時の平成29年3月末では約6万2千人でしたが、令和6年3月末には約5万4千人まで減少しておりますので、こちらの減少に歯どめをかけて、沿線上の人口を増やすというような施策については、取り組みが必要だと思っております。以上です。
三浦会長	よろしいですか。他の委員の方ございますか。どうぞ。
江頭委員	江頭といいます。人口が減っているのもわかります。ただ、バスと電車の道路の使い方というのが何とかならないのかなと。バスと電車が同じ路線を走ってるなら、どちらかを優先した方がいいのではないのでしょうか。人口が減っていても収入が増えるのは、インバウンド等の観光客が多く乗っているからではないのでしょうか。一般の利用者というのはそんなに増えてはいないと思うので、その辺も踏まえて、実際に市民が使うのであれば美原方面や赤川方面の方から五稜郭まで来て、五稜郭で電車への乗り換えがしやすくするという形をとって電車を利用していただく。そのようにしたら、バスの方も運転士不足とかでなかなか便数が増えないとか、その辺の解消について市と函館バスさんと協議することはないのでしょうか。以上でございます。
事業課長	事業課長の湊より回答させていただきます。函館バス株式会社と函館市電との連携は現在も行っているところでございまして、同じところを走っているのではないかとご意見は常日頃から受けてはいるんですけれども、こちらに関しましては、電車は現在8分間隔で運行しております。函館バスさんの方も沿線を走ってはいらっしゃるのですけれども、その先は沿線を離れて、ガス会社方面や美原方面など幅広い路線に繋がっておりますことから、そちらに向かう方々の利便性を考慮して運行されているというように考えておりますので、これに関しましては、今後も函館バスさんと強化して進めていきたいと思っております。以上です。
三浦会長	よろしいですか。他にございますでしょうか。 山本委員、どうぞ。
山本委員	交通事業の諸経費のことについて提案があります。軌道改良で夜間工事を結構やっていますよね。夜間工事だと5割増しぐらいになり、昼間と大分違ってくると思います。交通量の少ないところは昼間に変えても大丈夫じゃないかと思うのですが。今、人がいないので工事をする方も大変だと思いますから、昼間に出来るような方法があると思うのですが、交通量の多いところでは仕方ないですけど、交通量の少ないところはそんなに交通渋滞は起きないと思うので、昼間に工事をやってもいいのではないのでしょうか。

交通部次長 交通部次長の廣瀬よりお答えいたします。山本委員のご指摘のとおり、労働環境ということも考え、昼間の作業を増やす方向で10年以上前から取り組んでおります。ただ、どうしてもレールを外さなければならないということになりますと、電車を動かすわけにいきませんので、電車の運行に支障がある工事に関しては夜間にせざるを得ません。最近の例では、去年一昨年、十字街にあるポイントを更新する工事は、当初夜間で考えてはいたんですが、その作業員さんがなかなか夜間作業だと集まらないとか、あるいは近隣への騒音の問題があり、それに関しては昼間に施工しました。その結果、3日間このエリアの電車の運行をとめて代行バスで輸送したということになるのです。繰り返しになりますが、今は出来るだけ日中の工事を進めておりまして、自動車交通への影響もさることながら、電車を出来るだけ止めずにやらなければならないですから、どうしても電車を走らせることができない場合のみ夜間にやるというようなことを考えて進めております。以上でございます。

三浦会長 よろしいでしょうか。それでは、渡部委員どうぞ。

渡部委員 それでは、12ページの黄色の帯の基本方針2番、便利で快適な輸送サービスの提供の(2)利便性の向上、その中の④に料金体系についての調査研究とございますが、こちらはICカードのデータで乗り継ぎなどの調査や検証などを行われたということですが、この他に、他都市の路面電車の料金改定の状況などについても調査をされることはあるのでしょうか。よろしくお願いします。

事業課長 事業課長の湊より回答いたします。路面電車を運行している事業者は、全国に19事業者あり、そのうち公営による事業を実施しているのは函館市のほか4事業者となっております。公営による事業者においては、札幌市が令和6年12月に料金改定を行ったほか、熊本市が令和5年6月、そして令和7年6月にも予定をしているところでございます。コロナウイルス感染症の影響を受けている令和2年以降に料金改定を実施または予定している事業者は、全国19事業者のうち12事業者となっております。以上です。

渡部委員 ありがとうございます。値上げ幅なども参考にされることはあるのでしょうか。

事業課長 事業課長の湊より回答いたします。料金改定に伴う際に、他の事業者の値上げ幅は調査をいたしました。料金改定の理由や経営状況などに違いがありますことから、算出の直接的な参考とはいたしませんでした。算出するにあたりましては、40円引き上げた場合の料金改定のシミュレーションを行っており、当面は安定した経営を維持することができるものと見込んだところでございます。以上です。

三浦会長 よろしいですか。他にございますでしょうか。
それでは、この議題を終わるにあたって、私の方からですが、資料の5ページと資料の7ページのところに出てくる言葉の説明ですけれども、1つは、以前に説明されてると思うので皆さんもご存知かもしれませんけれども、DBO方式という言葉がありますよね。あと、7ページに上下水道事業のBCPに基づくという言葉は出てきます。皆さんはご承知なのかかもしれませんけれども、こういう略語が出てきた初回だけで結構ですから、ちょっと説明を加えておいた方がいいと思います。例えば、BCPだったらビジネスコンティニュエィプランというのをいれるとか、ちょっと簡単な説明を入れると発言内容が分かりやすいのかなと思います。

それでは、ご質問はないようですので、本件については終了したいと思います。
委員の皆様には、お忙しいとは存じますが、各経営ビジョンの進行管理に係るご意見を提出していただきたく、よろしくお願い申し上げます。また、本日の説明等で改めて疑義が生じた場合など、事務局で質問を受け付けるということですので、ご質問等ございましたら事務局に連絡をお願いいたします。

4 報告事項

三浦会長 それでは、次に次第4の報告事項でございますが、事務局から報告事項があるということなので、お願いいたします。

経営企画課長 はい。本日1点ご報告させていただきます。ポイントサービスの終了等について担当課よりご報告いたします。

事業課長 <説明 資料17ページ>

三浦会長 ただいま事務局から報告がございました。各委員の皆様，ご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。
この報告に関しては，ご質問等ないようですので，本件については終了したいと思います。

5 その他

三浦会長 それでは，次に次第5のその他でございます。何か，ご意見等ございますでしょうか。
ご発言がないようですので，本日の会議日程は以上となります。
それではこの先の進行を事務局にお返しします。

6 閉会

経営企画課長 三浦会長ありがとうございました。
以上で本日の日程は全て終了となります。本日の会議録につきましては，この後事務局にて案を作成し，後日，委員の皆様へ発送させていただき，ご確認いただく形で作成してまいりたいと考えておりますので，よろしくお願いいたします。
それでは，以上をもちまして令和6年度第3回函館市企業局経営懇話会を閉会いたします。本日はありがとうございました。